

3. 美術館及びその複合施設

3-1 美術館及びその複合施設の設置状況

3-2 自主事業

3-3 事業運営

3-1 美術館及びその複合施設の設置状況

●施設数

美術館及びその複合施設（以下、美術館と言う）を設置主体別・運営形態別に集計したのが【表17】である。複合施設を構成している個別施設単位でカウントした延べ施設数で集計した結果、2000年3月末までに設置された美術館として回答があったのは計376館だった。設置主体別の内訳は、都道府県設置施設63館、政令市設置25館、市区町村設置288館で、市区町村設置施設が全体の76.6%に上っている。

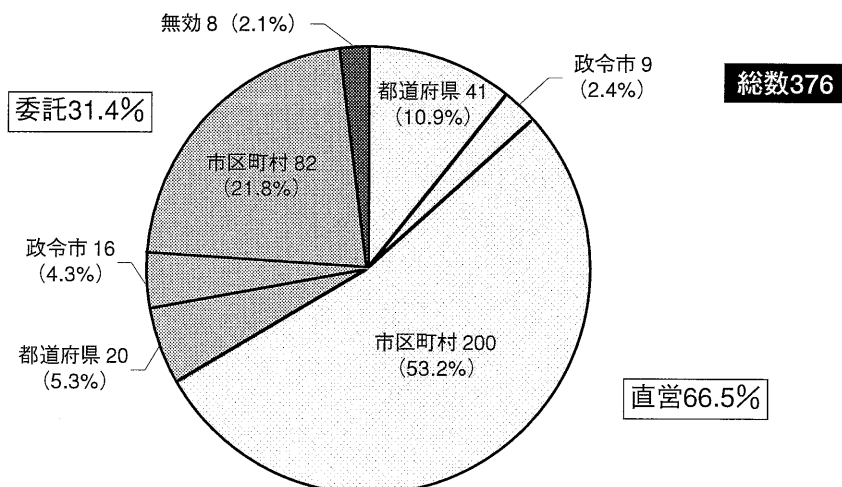
運営形態別（直営・委託）の比率を示したのが【図16】である。美術館全体で地方公共団体の直営館が66.5%（250館）、委託が31.4%（118館）となっている。設置主体別で比べると、政令市設置施設で委託が64.0%と高いのに対し、都道府県設置施設と市区町村設置施設では直営が65.1%、69.4%と高くなっている。芸術文化施設全体では、設置主体の規模が小さいほど直営比率が高くなる結果となっており、美術館で都道府県設置施設に直営館が多いのは際だった特徴と言える（P8参照）。

【表17】美術館の設置主体別・運営形態別施設数

設置主体	直営		委託		無効	総計
都道府県	41	(65.1)	20	(31.7)	2	63 (100)
政令市	9	(36.0)	16	(64.0)	0	25 (100)
市区町村	200	(69.4)	82	(28.5)	6	288 (100)
総計	250	(66.5)	118	(31.4)	8	376 (100)

※（ ）内は構成比

【図16】美術館の直営・委託比率



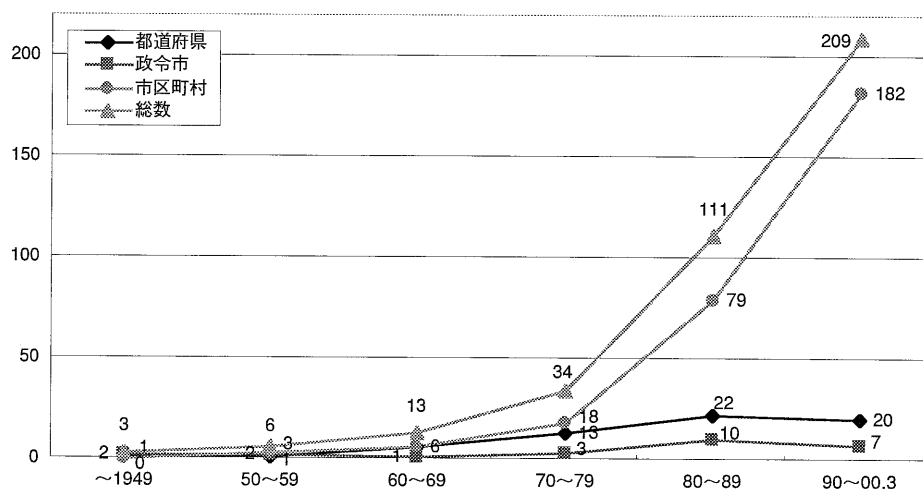
●年代別施設設置数の推移

年代別美術館設置数の推移を設置主体別に示したのが【図17】である。開館年代別に見てみると、70年代に入ってから美術館の設置数が増えはじめ、70年代に34館、80年代に111館、90年代には（2000年3月まで含む）209館が設置されている。最も多くの施設が設置されたのはホール施設と同様に90年代である。全美術館の55.6%がこの10年間に設置され、80年代と合わせると、この20年で全施設の85.1%が設置されているという驚くべき結果となった。

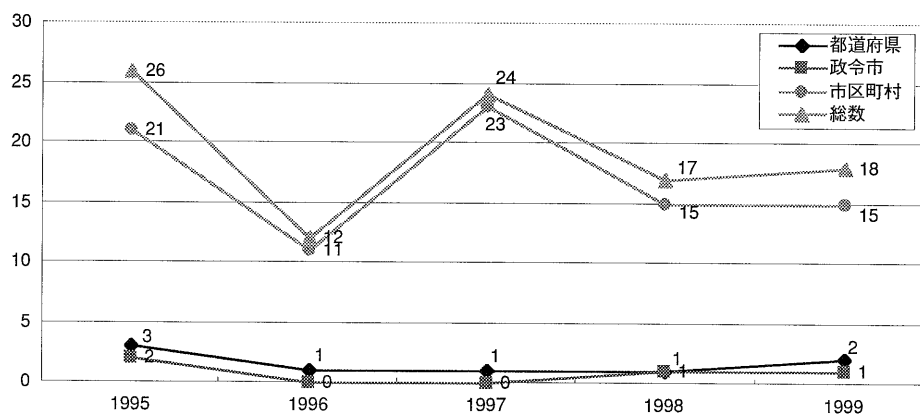
設置主体別に見ると、都道府県と政令市の設置施設数が90年代に入ってから減少しているのに対し、市区町村の設置する美術館数は2.3倍に伸びている。

近年の美術館数の推移を単年で見たのが【図18】である。市区町村の設置する美術館はやや減少傾向にあるものの、引き続き各地で整備が進められている。

【図17】美術館設置数の推移（暦年）



【図18】近年（95-99）の美術館設置数の推移（暦年）



●個別スペースの状況

美術館に付帯する個別展示室の数と展示室の総面積を設置主体別に集計したのが【表18】である。2000年3月末までに設置された個別展示室は計1,331室であった。設置主体別の内訳は、都道府県設置259室、政令市設置115室、市区町村設置957室で、市区町村設置展示室数が全体の71.9%に上っている。

美術館の展示室面積を合計した展示室総面積は325,148m²であり、美術館の規模を示す1施設あたりの平均展示スペースは916m²となった。ちなみにこれを全国平均すると人口1,000人あたり2.56m²の展示スペースが供給されている計算になる。

設置主体別で比べると、都道府県設置施設の1美術館あたりの平均展示スペースは2,253m²、政令市は1,457m²、市区町村は591m²となり、設置主体の規模が大きいほど美術館の規模も大きくなっているのがわかる。

展示面積別の施設割合を示したのが【図19】である。施設数が161館と最も多いのが展示面積が500m²未満の小規模美術館で、全体の45.4%を占めている。また、99.2%の施設が5,000m²未満に収まっており、それ以上の大規模美術館はわずか3館のみだった。

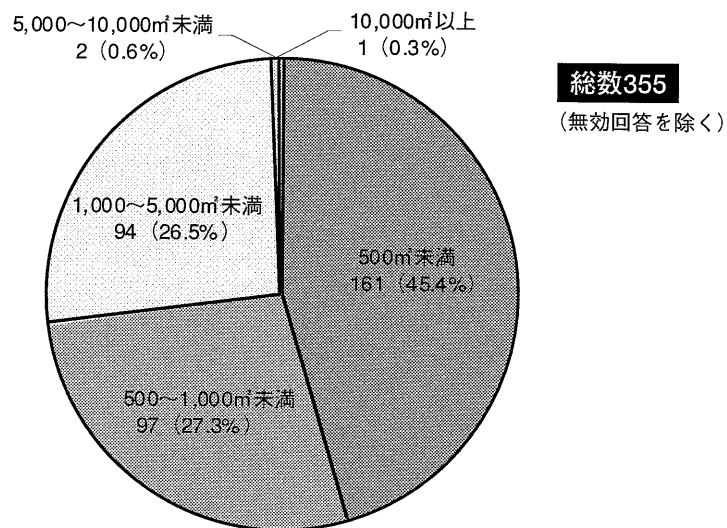
個別展示室数と展示スペースの年代別推移を示したのが【図20】である。年代別に見ると、展示室数、展示スペースともに70年代から80年代にかけての伸びが急速で、展示室数で2.9倍、面積で2.1倍になっている。また、最も多くの展示室が供給されたのは90年代で全展示室の51.0%、全展示面積の41.9%がこの10年間に供給されている。

【表18】設置主体個別展示室数・展示室総面積

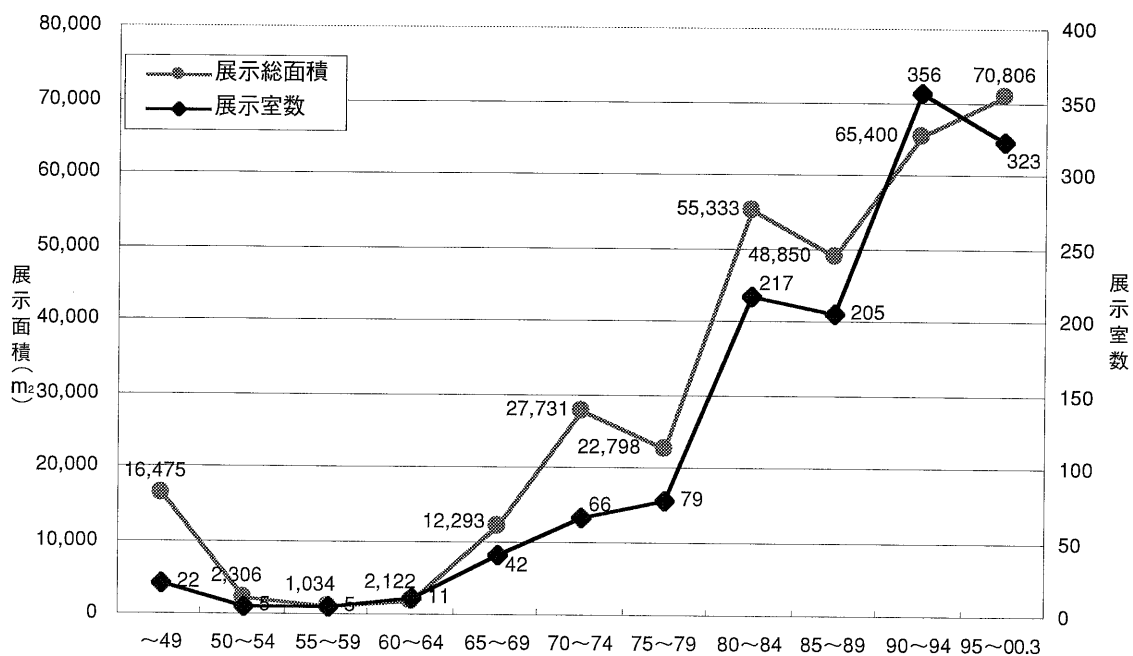
設置主体	美術館総数	展示室数	展示室総面積 (㎡)	平均展示室総面積
都道府県	63	259	130,699	2,253
政令市	25	115	32,054	1,457
市区町村	288	957	162,395	591
総計	376	1,331	325,148	916

※平均値は有効回答数を母数として算出

【図19】展示面積別の施設割合



【図20】個別展示室・展示面積の年代別設置数の推移 (暦年)



3-2 自主事業

●収蔵品点数と購入審査員制度

美術館の収蔵点数と購入審査員制度の導入施設数を設置主体別に集計したのが【表19】である。美術館376館中収蔵品のある館は321館で全体の85.4%を占めている。収蔵品の総計は1,474,418点で、1館あたりの平均収蔵点数は4,622点だった。また、展示面積が500m²未満の小規模美術館でみると、161館中収蔵品のある施設は129館（80.1%）で、平均収蔵点数は659点となっている。

設置主体別、施設形態別に平均収蔵点数を比べたのが【図21】である。群を抜いて収蔵点数が多いのが都道府県設置の複合施設で21,074点、次が市区町村設置の複合施設で10,028点だった。政令市設置美術館の収蔵品数が少ないのが際だっているが、これは現代美術館が多く、現在収集を行っている途上のためと考えられる。複合施設と単館で収蔵点数に差があるのは、都道府県設置施設で博物館との複合が4館、政令市で博物館との複合が1館、市区町村で博物館複合56館となっているのが影響しているためと思われる。

収蔵点数別の施設割合を示したのが【図22】である。最も多いのが収蔵点数500点未満の小規模な美術館で、全体の47.2%を占めている。また、収蔵点数が10,000点以上という大規模な施設が18館あり、ここだけで全収蔵点数の76.2%を占めている。

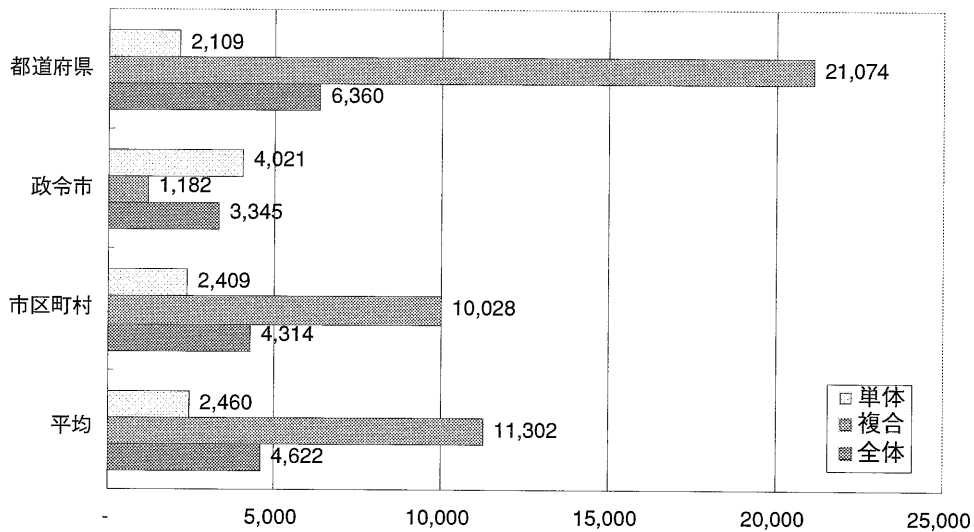
また、こうした収蔵品を購入する際に購入審査員制度を導入している美術館は321館中50.5%の162館だった。

【表19】設置主体別収蔵点数と購入審査員制度の導入施設数

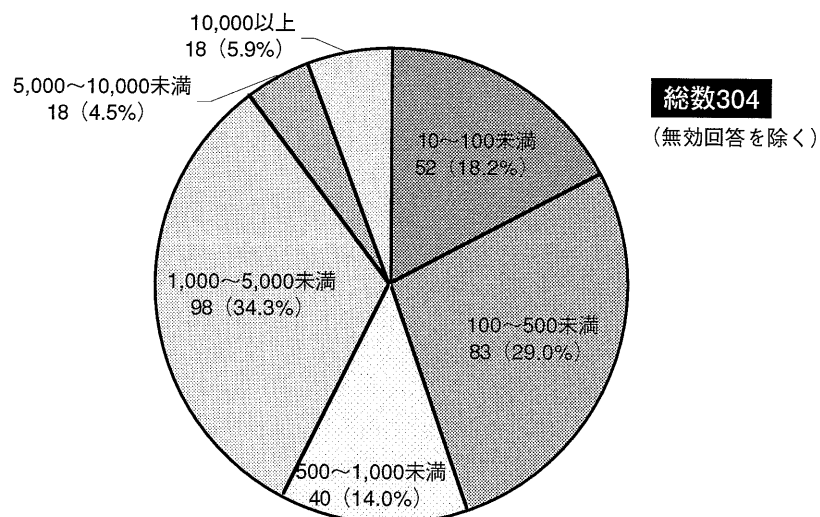
主体等	美術館総数	収蔵施設数	収蔵品総数	平均収蔵点数	購入費(千円)	平均購入費(千円)	購入審査員制度実施数
都道府県	63	57 (90.5)	368,878	6,360	3,371,866	68,814	48 (84.2)
政令市	25	21 (84.0)	70,241	3,345	1,141,554	87,812	15 (71.4)
市区町村	288	243 (84.4)	1,035,299	4,314	3,043,891	25,796	99 (40.7)
総計	376	321 (85.4)	1,474,418	4,622	7,557,310	41,985	162 (50.5)
500m未満の小規模美術館	161	129 (80.1)	106,104	659	424,326	2,636	41 (31.8)

※ () 内は美術館総数に対する割合。右 () 内は収蔵施設数に対する割合。平均値は有効回答数を母数として算出

【図21】1館あたりの平均収蔵点数の設置主体別・施設形態別比較



【図22】収蔵点数別の施設割合



●購入費

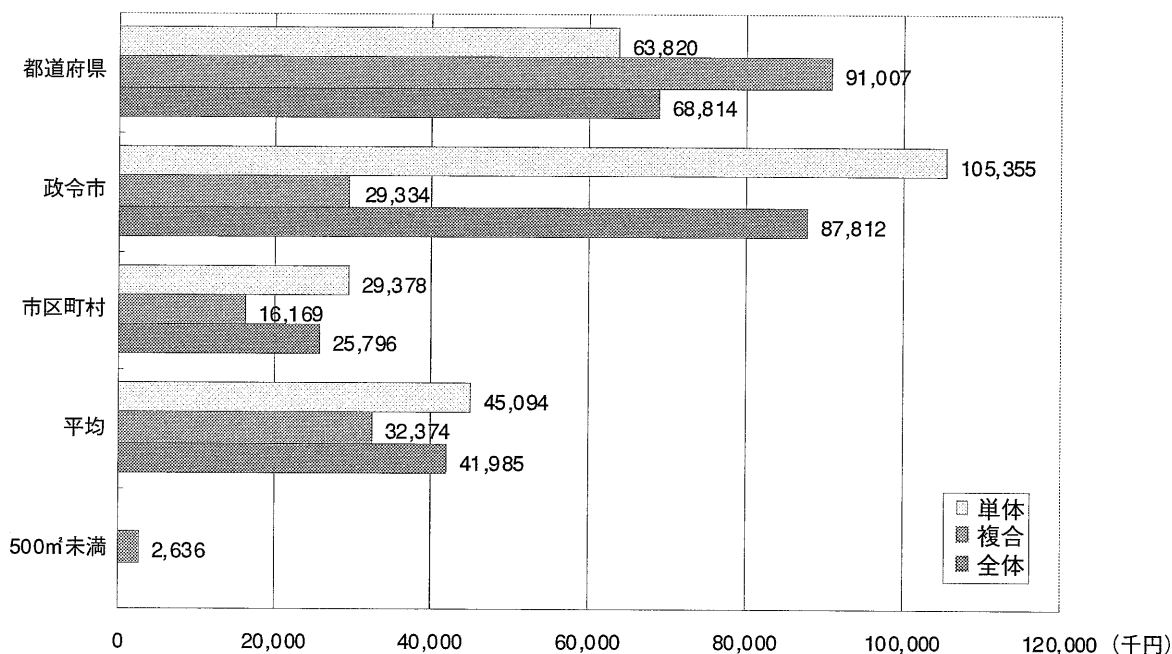
設置主体別、施設形態別（単体・複合）に1館あたりの年間収藏品購入費を比較したのが【図23】である。収藏品購入費の総額は7,557,310千円で、1施設あたりの平均購入費は41,985千円だった。

設置主体別に見ると、収藏品数がもっとも少ない政令市設置施設で購入費が最も多く87,812千円となっている。次いで都道府県が68,814千円、市区町村が25,796千円だった。

施設形態別に比べてみると、最も多かったのが政令市の単体施設で105,355千円、次いで都道府県の複合施設で91,007千円、最も少なかったのが市区町村の複合施設で16,169千円という結果になった。

展示面積が500㎡未満の小規模美術館でみると、収藏品購入費の平均は2,636千円だった。

【図23】1館あたりの収藏品購入費の設置主体別・施設形態別比較（平成11年度実績）



●企画展の状況と芸術（教育）普及事業

美術館の企画展実施件数を設置主体別に集計したのが【表20】である。美術館376館のうち、企画展を実施しているのは317館で、全体の84.3%に上っている。企画展の総実施件数は1,473本で、1館あたりの平均は4.7本だった。

設置主体別、施設形態別（単体・複合）で年間企画展事業費を比較したのが【図24】である。年間企画展事業費の総額は9,021,349千円で、1施設あたりの平均は32,805千円となっている。設置主体別に見ると、都道府県設置施設と政令市設置施設がほぼ同額で71,655千円、71,910千円、市区町村が17,943千円だった。

施設形態別に比べると、最も事業費が多かったのは政令市設置の単体施設で78,947千円、最も少なかったのは市区町村設置の単体施設で17,446千円であった。

展示面積が500m²未満の小規模美術館で見ると、企画展を実施しているのは全体の77.0%にあたる124館で、自主事業費の平均は6,759千円、平均企画展数は4.5本と、企画展数を除いては全体平均を下回っていた。

芸術（教育）普及事業（以下、普及事業と言う。注1）の実施施設数と実施件数を設置主体別に集計したのが【表21】である。普及事業を実施している施設は美術館376館中220館で実施率は58.5%だった。年間の実施総数は2,127本で、1施設あたりの平均実施件数は10.1件となっている。

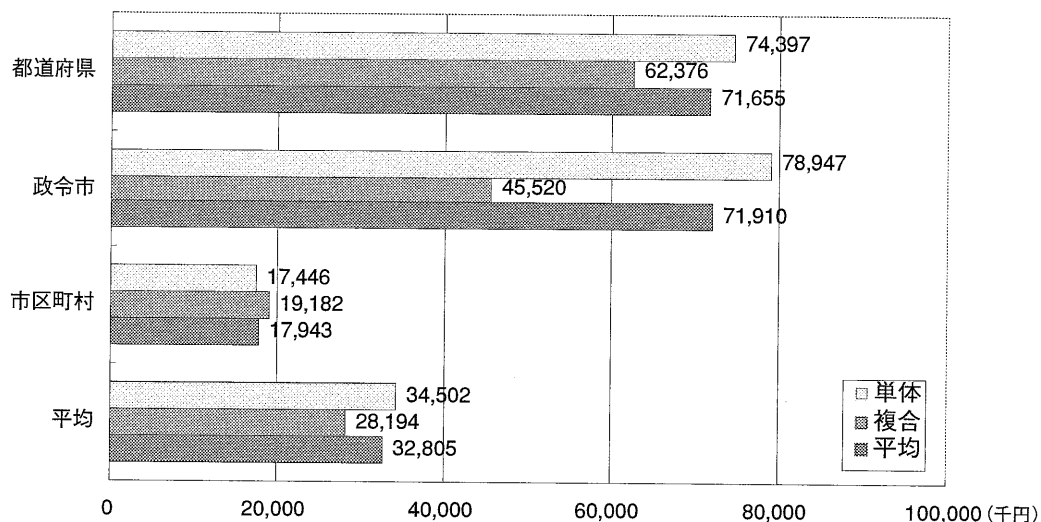
(注1) 鑑賞者育成や芸術文化の普及を目的として行われるワークショップ（体験型事業）、ギャラリートークなどを言う。

【表20】設置主体別企画展実施施設数・実施件数（平成11年度実績）

設置主体	美術館総数	実施館数	企画展総数	平均企画展数
都道府県	63	59 (93.7)	299	4.9
政令市	25	20 (80.0)	86	4.3
市区町村	288	238 (82.6)	1,088	4.6
総計	376	317 (84.3)	1,473	4.7
500m ² 未満の小規模美術館	161	124 (77.0)	552	4.5

※（ ）内は美術館総数に対する割合。平均値は有効回答数を母数として算出

【図24】 1館あたりの平均年間企画展事業費の設置主体別・施設形態別比較（平成11年度実績）



【表21】 芸術（教育）普及事業の設置主体別実施施設数・実施件数（平成11年度実績）

設置主体	美術館総数	実施館数	事業総数	平均事業数
都道府県	63	55 (87.3)	798	15.6
政令市	25	18 (72.0)	281	15.6
市区町村	288	147 (51.0)	1048	7.4
総計	376	220 (58.5)	2127	10.1

※（ ）内は美術館総数に対する割合。平均値は有効回答数を母数として算出

3-3 事業運営

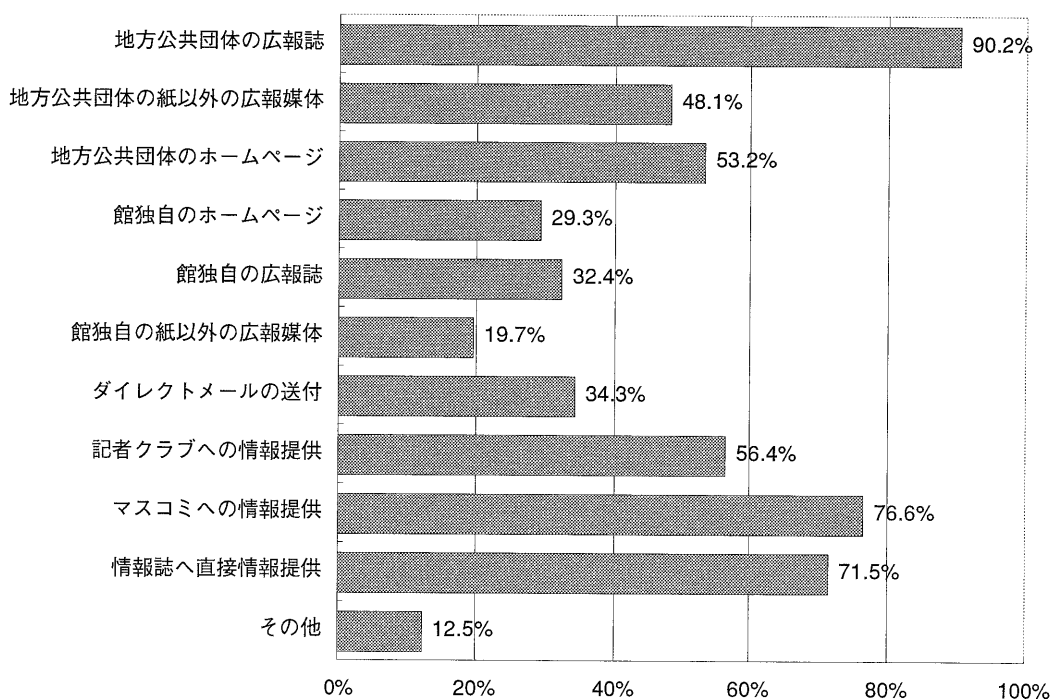
●広報・宣伝

広報・宣伝としてどのような手段が用いられているかをまとめたのが【図25】である。最もよく使われている手段が地方公共団体の広報誌で、全施設の90.2%が利用していた。以下、マスコミへの情報提供76.6%、情報誌への情報提供71.5%、記者クラブへの情報提供56.4%、地方公共団体のホームページ53.2%、地方公共団体の紙以外の広報媒体48.1%と続いている。館独自の広報誌やダイレクトメールで情報を提供しているところは32.4%、34.3%だった。近年、注目を集めているホームページについては館独自で立ち上げているところが110館で、全体の29.3%となっていた。

ホール施設の広報・宣伝と比べて、美術館の方がマスコミ、情報誌、記者クラブといった一般メディアへのパブリシティ活動が積極的に行われているという結果となった。また、ホームページの開設についても美術館の方が15.7ポイント高くなっている（P23参照）。

ちなみに平成9年1月に行った悉皆調査と比較すると、情報誌への情報提供（前回調査64.5%）、記者クラブへの情報提供（同46.4%）、地方公共団体の紙以外の広報媒体（同34.5%）の項目で上回っていた。また、今回の調査では館独自の広報誌の発行率が前回の56.2%より低くなっているのは、ホームページへの代替が進んだためと考えられる。

【図25】 広報宣伝の手段



●他館等との連携

他の美術館や学校と連携を行っている施設数と連携のための常設協議機関数を設置主体別に集計したのが【表22】である。他の美術館と何らかの連携を行っているところは美術館376館中222館で、全体の59.0%に上っており、ホール施設より美術館の連携率の方が19.8ポイントも高いという結果となった（P24参照）。設置主体別に見ると、都道府県設置施設の連携率が76.2%、政令市が同じく76.0%、市区町村が53.8%となっている。

連携を実施している館のうち、常設機関を設けているところは36.5%の81館であった。また、学校との連携は美術館全体の48.1%にあたる181館で実施されていた。

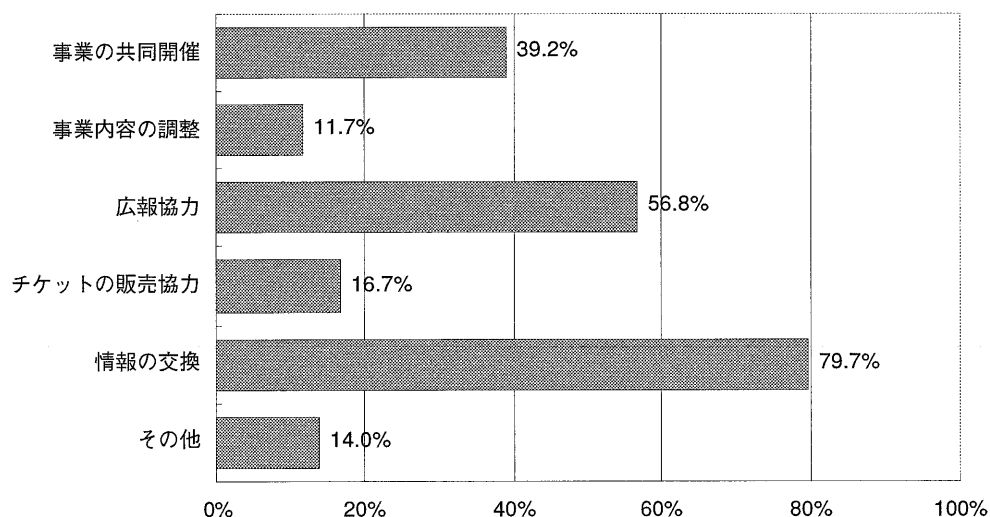
他の美術館との連携内容をまとめたのが【図26】である。連携率の高い項目順に情報交換79.7%、広報協力56.8%、事業の共同開催39.2%、チケット販売協力16.7%、事業内容の調整11.7%となっている。ホール施設と比べて事業の共同開催での連携比率が高くなっているのが興味深い。

【表22】連携（ホール・学校）実施施設数と常設協議機関数

設置主体	美術館総数	連携実施施設数	学校連携施設数	常設協議機関数
都道府県	63 (100)	48 (76.2)	32 (50.8)	29 (60.4)
政令市	25 (100)	19 (76.0)	12 (48.0)	3 (15.8)
市区町村	288 (100)	155 (53.8)	137 (47.6)	49 (31.6)
総計	376 (100)	222 (59.0)	181 (48.1)	81 (36.5)

※（ ）内は美術館総数に対する割合。常設機関の（ ）内は実施施設に対する割合

【図26】他館との連携内容



●施設のサポート組織（ボランティア、友の会）

施設のサポート組織としてボランティアスタッフと友の会を有している施設数、登録人数を設置主体別に集計したのが【表23】である。ボランティアスタッフを有する施設は美術館376館中107館で、全体の28.5%となっている。登録人数は計6,229人で1施設あたりの平均は67人であった。

設置主体別にみると、ボランティア導入率の高い順に都道府県設置施設52.4%、政令市40%、市区町村22.2%で規模の大きな都道府県設置施設ほどボランティア導入率は高かった。

友の会の導入率は全体の32.7%（123館）で、友の会の会員数は計57,847人、1施設あたりの平均は507.4人であった。ホール施設の友の会組織（平均会員数807人）より美術館の方が規模が小さいという結果になった。

設置主体別に見ると、導入率の高い順に都道府県設置施設52.4%、政令市36%、市区町村28.1%となる。

ボランティアスタッフの業務内容をまとめたのが【図27】である。ボランティアスタッフを有する107館で業務内容として上げている項目を比率の高い順に言うと、受付・案内・監視員48.6%、広報・宣伝32.7%、ギャラリートーク22.4%、事業の制作・進行参加21.5%、事業の企画への参加16.8%となっている。

近年、注目されているボランティアによるギャラリートークについては、美術館全体の6.3%で実施されていることがわかった。

【表23】 サポート組織（ボランティア・友の会）を有する施設数と登録人数

設置主体	美術館総数	ボランティア			友の会		
		実施施設数	登録人数	平均人数	実施施設数	登録人数	平均人数
都道府県	63	33 (52.4)	2,409	77.7	33 (52.4)	22,498	725.7
政令市	25	10 (40.0)	891	111.4	9 (36.0)	7,738	859.8
市区町村	288	64 (22.2)	2,929	54.2	81 (28.1)	27,611	373.1
総計	376	107 (28.5)	6,229	67.0	123 (32.7)	57,847	507.4

※（ ）内は美術館総数に対する割合。平均値は有効回答数を母数として算出

【図27】 ボランティアスタッフの業務内容

